

# 市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

かんぬきを掛け男体山の冬仕度

さつき3丁目 伊藤 純夫

●特選の選評

今回男体山の閉山祭を詠んだ句が二句あった。どちらにしようかと迷ったが、結果として「男体山」を明確に詠み込んだこの句を特選とした。日光二荒山神社中宮祠の登拝門にかんぬきを掛け、男体山は冬籠りに入る。私が初めて男体山に登ったのは、小学6年生の時。8月1日午前0時、登拝門の開くのを待って一斉に男体山頂上を目指して駆け上り御来光を拝んで下山した。

## 俳句



加茂都紀女先生

入選

長鉄届かぬ先の柚子たわわ

平松本町 飯島 敏夫

霧落ちゆけば千丈の紅葉谷

石井町 高根沢 富代

くしやみして欠伸をしても広き部屋

下田原町 五十嵐 由美子

木道の継ぎ目を覆ふ草紅葉

横山2丁目 小野 則雄

特選

LRT新年の街走り行く  
土地の血流未来託され

中岡本町 中沢 智子

●特選の選評

LRT開業以来4カ月余り。乗客も増え好調な滑り出しである。短歌界にもLRT詠が増える現状。この一首に立ち止まったのは「土地の血流未来託され」であった。新年の松飾りなせる「おめでと」の街並みを走り行くLRT。人間の体内の血液の流れのごとく脈々と続くLRT。「託され」に限りない夢と願望が満ちあふれる一首である。

## 短歌



安野登美子先生

入選

アキアカネ秋空いっぱい飛び交ひて  
西のみ空に吸ひこまれたり

下栗町 大塚 榮子

五年経つ銀杏の株のひこばえを  
すまぬすまぬと詫びて刈り取る

野沢町 鈴木 孝男

夕陽浴びライトラインの走る街  
ジオラマのごと城址より見ゆ

清原台1丁目 三木 紋子

金星が冬三日月に寄り添って  
ビルの向かこうに隠れ行くなり

花園町 小林 秀行

特選

年賀状今度飲もうと十余年

新里町乙 小池 貞雄

●特選の選評

近年は年賀状を書く人も少なくなり、メールなどでの年始の挨拶も多くなってきた。そんな中でも友人からの手書きの年賀状は嬉しく、今年こそ飲もうと互いに書いてはみるがなかなか実現しない。時間をつくって積もる話をしたものだ。髪の薄さや皺の数も気に掛かる。

## 川柳



佐藤隆久先生

入選

一年の生きた証を片付ける

陽東3丁目 伊澤 秀夫

年輪が顔と背中を丸くする

川田町 小林 和子

冷たさのピクリときせる心電図

立伏町 大樹 龍五郎

言の葉を紡ぐ一句に脳が生き

岩曽町 川室 正男

### 俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

320-8540  
住所・氏名・壇名  
ふりがな  
宇都宮市役所  
広報広聴課

裏

作品への思い  
作品への思い  
作品への思い